

Dr. K. K. Sun: as Lt. Colonel, he works at the Office of Deputy Chief of the General Staff, Logistics Command, Ministry of National Defense, and coordinates the MND and SGH regarding military family planning program

Miss S. L. Hwang: Her military rank is captain and is chief nurse at the Surgeon General's Headquarters

Miss C. Y. Su: Village Health Nurse Supervisor, China Red Cross, Taiwan Branch, in charge of supervision of community health development program including family planning

年月日: 1969年11月15日

用務: 日本の人口問題の変化と出生力ならびに家族計画の動向

連絡機関: I. P. P. F., Western Pacific Region Office

○ 禹基度氏 (Mr. Ki Do Woo): 大韓民国漢陽大学校商経大学教授

年月日: 1969年11月25~29日, 12月3日

用務: 社会政策学の見地からする人口の研究

連絡機関: 韓国人口問題研究所

○ 宋永澄氏 (Mr. Yung-Li Soung): 中華民國台湾省家庭計画研究所

年月日: ~1969年11月28日 (1968年11月より約1か年間にわたる滞在)

用務: 日本における優生保護法, 労働力推計・分析方法その他, 人口分析に関する調査研究

連絡機関: O T C A (海外技術協力事業団)

○ Dr. Lee-Jay Cho: The Ford Foundation, Kuala Lumpur, Malaysia

年月日: 1969年12月13日

用務: 日本の人口政策の現状について聴取のため

○ Mr. Graham J. Lucas: Japan Representative, The Asia Foundation, Tokyo

Mr. Arthur Paul: Regional Economic Adviser, The Asia Foundation, Tokyo

年月日: 1969年12月15日

用務: アジア労働力人口に関する会議開催準備

連絡機関: The Asia Foundation, Tokyo

## 第42回日本社会学会大会

第42回日本社会学会大会は、昭和44年10月4(土), 5(日)の両日、島根大学において開催され、本研究所から、上田正夫(人口政策部長)、清水浩昭(人口移動部分布科)および柴田弘捷(人口政策部政策科)の3技官が出席した。

一般研究報告は、基礎理論、社会学史、家族、産業・労働、地域・都市、政治、社会病理、人口問題の8部会に分かれ、計33題の報告があり、例年に比べて部会数、報告数ともやや少なかった。

一昨年度から始められたテーマ部会は、「理論」部会として「社会体系論」、「地域と労働者」部会として「現代における地域社会の支配構造をめぐって」、「家族と社会病理」部会として「現代社会と家族病理」につき、それぞれ3報告があり、討議が行なわれた。

また、シンポジウムとして、開催地の重要な問題である「過疎問題——中国山地を中心として」について、過疎とはなにか、過疎地域分析の方法、中国山地における過疎の実態などの報告と、これに対する県行政、市町村行政、社会学のそれぞれの立場からの討議が行なわれた。

なお、「人口問題」の部会においては次の4報告があった。

1. 死亡秩序の近代化に関する若干の追加分析……………山本文夫(佐賀大学)
2. 人口移動研究の動向……………黒田俊夫(人口問題研究所)
3. 人口変動と世帯・家族構成の変化……………上田正夫(人口問題研究所)
4. 世界人口の変動と日本の立場……………西野入徳(国土館大学)  
(上田正夫記)

## 日本家政学会第21回総会

日本家政学会第21回総会は、昭和44年10月3日(金)から5日(日)の3日間にわたり、東京の日本女子大学において開催され、本研究所から内野澄子技官(人口移動部移動科)が出席した。

第1日は、学会賞受賞者講演ならびに「関連諸科学からみた家政学」と題したシンポジウムが行なわれた。第2日と第3日において行なわれた一般報告は274題に上り、このうち人口に関連を持った報告をあげると次のとおりである。

- ファミリー・サイクルに対応する教育費……………伊藤秋子(お茶の水女子大学)
- ファミリー・サイクルに対応する理論食料費……………新垣都代子(琉球大学)
- 共稼ぎ主婦の生活構造……………岡村益(福島大学)
- 我が国の婦人の職業上及び家族上の地位……………本田弘子(光華女子短期大学)
- 人口移動と食生活の構造的変化—主食形態を中心として—……………内野澄子(人口問題研究所)  
(内野澄子記)

## 1969 日本地理学会秋季大会

1969 日本地理学会秋季大会は、昭和44年10月9(木)~12(日)の4日間にわたり仙台市宮城教育大学附属中学校で開催された。本研究所からは、伊藤達也技官(人口移動部移動科)が出席した。

研究発表は、研究委員会とシンポジウムに分けて行なわれた。研究委員会は、9日夜、都市地理学研究委員会、農業地理学研究委員会、計量地理学研究委員会(以上白萩荘)、地理学と教育研究委員会(宮城寮)と水文学研究委員会(翠風荘)の5会場に分かれて開かれた。

10日のシンポジウムは、「広域中心都市」、「東北日本の農業の変化」と「日本における気候地形」の3テーマであった。広域中心都市では、広域中心都市とは何か? それを表わす指標と内容に討論が集中したが、結論は得られず、今後の研究課題として残された。

11・12日は、エクスカージョンで、四つのコースに分かれ東北各地に散っていった。

(伊藤達也記)

## 第23回日本人類学会日本民族学会連合大会

第23回日本人類学会日本民族学会連合大会(会長 須田昭義)は、京都大学霊長類研究所が開催引き受け機関となり、昭和44年11月12(水)~14(金)の3日間、愛知県犬山市名鉄犬山ホテルにおいて、近藤四郎大会委員長の下に開催された。人類学関係の研究発表は第1日午前午後および第2日午前に行なわれ、民族学関係は第2日午後に行なわれ、第3日には2題のシンポジウムが開かれた。